

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

| | |
|------|-------------------|
| 学校名 | ホンダ テクニカル カレッジ 関東 |
| 設置者名 | 学校法人 ホンダ学園 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 課程名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数 | 省令で定める基準単位数又は授業時数 | 配置困難 |
|--------|---|-----------|-----------------------------|-------------------|------|
| 工業専門課程 | 自動車整備科 | 夜・通信 | 182時間 | 160時間 | |
| | 一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース | 夜・通信 | 382時間 | 320時間 | |
| | 一級自動車研究開発学科 開発・設計工学コース | 夜・通信 | 1083時間 | 320時間 | |
| | 一級自動車研究開発学科 海外インターンシップコース | 夜・通信 | 1004時間 | 320時間 | |
| | 国際自動車整備科 | 夜・通信 | 1004時間 | 240時間 | |
| | | 夜・通信 | | | |
| (備考) | 国際自動車整備科は、令和元年度より募集停止しているが、在学生については、従前の教育課程に基づいて記載している。 | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|---|
| http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/ |
|---|

3. 要件を満たすことが困難である学科

| |
|-----------|
| 学科名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|-------------------|
| 学校名 | ホンダ テクニカル カレッジ 関東 |
| 設置者名 | 学校法人 ホンダ学園 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|----------|--------------------------|---------------------|
| 非常勤 | 本田技研工業役員 | 2019.12.1～ 2021.11.30 | 組織運営体制への チェック機能 |
| 非常勤 | 本田技研工業役員 | 2019.12.1～ 2021.11.30 | 組織運営体制への チェック機能 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|-------------------|
| 学校名 | ホンダ テクニカル カレッジ 関東 |
| 設置者名 | 学校法人 ホンダ学園 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|---|---|
| 1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 | |
| (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書の作成課程 <ul style="list-style-type: none"> 3月上旬 次年度授業担当教員に授業計画書の作成方法について説明 3月上旬～中旬 授業担当教員が科目ごとに授業計画書を作成 3月中旬 学科ごとの課長が記載内容をチェック ・授業計画書の作成・公表時期 <ul style="list-style-type: none"> 3月下旬 完成 4月上旬 学校ホームページに授業計画書を掲載 | |
| 授業計画書の公表方法 | http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/ |
| 2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 | |

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

- ・履修認定の厳格かつ適正な実施状況

学則細則に基づき以下のように実施

学生へは、キャンパスガイドを配布し学則細則の説明を行っている。

<試験の方法>

学科（講義）については筆記試験、実習（演習、実験、実習、実技）については実技試験を原則とする。

但し、実習については、報告書をもって試験に代える場合、または、報告書（レポート）に加えて実技試験の場合もある。

<試験の受験資格>

期間中の各科目の出席が学校で定める出席時間を満たしていること。

※原則として、各科目の出席が90%以上のこと。

但し、出席時間が基準に満たない者に対しては、学生の願い出により補講授業を受けて不足分の出席時間数を補うことができる。

<試験の合格基準>

各科目の合格点は、100点満点による60点以上とする。

試験点数の評価は、

(5)：90～100点

(4)：75～89点

(3)：60～74点

60点未満の場合は再試験を行う。

報告書の評価は、

(5)：非常に優れている

(4)：優れている

(3)：普通

(2)：やや劣る

(1)：劣る（再提出の必要がある）

追試験または再試験等の得点は、試験結果の90%を得点とみなす。

但し、追試験に至った理由が止むを得ないと認めた場合は、この限りではない。

<学習評価の基準>

成績の評価は、学則細則17条（学習評価の基準）に基づき、

1. 評価時期は、各学期末および全科目修了を認定するときとする。

2. 学習評価は、報告書及び試験を総合し5段階で評価する。

3. 学習評価は、5段階で表す。

(5：特に成績優秀な者) (4：成績良のもの) (3：成績普通の者)

(2：成績やや劣る者) (1：成績特に劣り、不合格の者)

<修了の認定>

各科目の修了は、その科目の出席の状況及び試験の成績を勘案して認定する。

※各科目修了の認定は、学習評価の基準で（2：成績やや劣る者）以上とする。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- ・客観的な指標の具体的な内容（指標の算出方法）
各学生の履修科目の成績を、学則細則17条の「学習評価の基準」に基づき、学習評価点の平均を求め指標としている。

<指標の算出方法>

各授業科目について、各学期毎（前期・後期）に実施の5段階（5～1）での学習評価点の合計を、履修科目数で除した平均を「総合評価平均」とし、平均値が高い順番に並べたものを「総合評価平均順位」としている。

また、学科学年の成績分布状況を各学期末に把握している。

<算出方法の公表>

算出方法を、「学習評価の基準・修了／卒業の認定」の中で<成績評価基準>としてホームページで公表している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/（「学習評価の基準・修了／卒業の認定」<成績評価基準>②③）

| | |
|--|---|
| <p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業の認定に関する方針の具体的内容 <ul style="list-style-type: none"> 学則第1条の本校の目的である 「高度の一般教育と実際の専門的な技術及び理論を習得させ、新時代にふさわしい健全有為な社会人を育成」に基づき、社会で活躍できる以下の能力を身につけ、学科の卒業の基準を満たした者に卒業を認定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車整備士として必要な自動車整備技術（自動車の基本構造／点検／整備／故障診断）に関する知識・技術を習得し、それらを法規および安全に配慮し実施できる。 ・ 「自動車やものづくり」に関するホンダの最新技術を理解し、整備実務や開発実務で活用できる。 ・ 社会人としての基礎力を身につけ、相手との円滑なコミュニケーションをとる事ができる。 ・ 卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 学則細則23条に基づき以下のように実施 卒業認定会議の結果、卒業に必要な全科目が一定の基準に達し、出席率良好、性行良行と認められるものには、校長が卒業を認定する。 | |
| <p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p> | <p>http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/（「学習評価の基準・修了／卒業の認定」＜卒業の認定に関する方針＞（ディプロマ・ポリシー））</p> |

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

| | |
|------|-------------------|
| 学校名 | ホンダ テクニカル カレッジ 関東 |
| 設置者名 | 学校法人 ホンダ学園 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/ |
| 収支計算書又は損益計算書 | http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/ |
| 財産目録 | http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/ |
| 事業報告書 | http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/ |
| 監事による監査報告（書） | http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/ |

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
|-------------|----|---------------------------|----------------------------|------------|--------------|------------|-----------|
| 工業 | | 工業専門課程 | 一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース | | ○ | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 4年 | 昼間 | 4146 単位時間 | 1416 単位時間 | 60 単位時間 | 2670 単位時間 | 0 単位時間 | 0 単位時間 |
| | | | 4146 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 520人 の内数 | | 462人 の内数 | 14人 の内数 | 30人 の内数 | 2人 の内数 | 32人 の内数 | |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>国家二級整備士資格の取得を目標に「自動車整備士養成施設の指定基準」に定められた学科および実習科目を必要時間以上実施。また、自動車開発技術の修得を目標に学科および実習科目を実施。</p> <p>加えて、社会人として必要な一般教養科目も実施。4年間の授業科目・時間数は学則で定め、全科目の修得を必須としている。</p> <p>授業方法および授業内容、授業時間数は、以下の</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画書の作成課程 <ul style="list-style-type: none"> 3月上旬 次年度授業担当教員に授業計画書の作成方法について説明 3月上旬～中旬 授業担当教員が科目ごとに授業計画書を作成 3月中旬 学科ごとの課長が記載内容をチェック ・ 授業計画書の作成・公表時期 <ul style="list-style-type: none"> 3月下旬 完成 4月上旬 学校ホームページに授業計画書を掲載 <p>手順で授業計画として作成・公開している。</p> |

成績評価の基準・方法

(概要)

学則細則に基づき以下のように実施

<試験の方法>

学科については筆記試験、実習については実技試験を原則とする。

但し、実習については、報告書をもって試験に代える場合、

または、報告書（レポート）に加えて実技試験の場合もある。

<試験の受験資格>

期間中の各科目の出席が学校で定める出席時間を満たしていること。

※原則として各科目の出席90%以上の出席。

但し、出席時間が基準に満たない者に対しては、学生の願い出により

補講授業を受けて不足分の出席時間数を補うことができる。

<試験の合格基準>

各科目の合格点は、100点満点による60点以上とする。

試験点数の評価は、

(5) : 90～100点

(4) : 75～89点

(3) : 60～74点

60点未満の場合は再試験を行う。

報告書の評価は、

(5) : 非常に優れている

(4) : 優れている

(3) : 普通

(2) : やや劣る

(1) : 劣る（再提出の必要がある）

追試験または再試験等の得点は、試験結果の90%を得点とみなす。

但し、追試験に至った理由が止むを得ないと認めた場合は、この限りではない。

<学習評価の基準>

成績の評価は、学則細則17条（学習評価の基準）に基づき、

1. 評価時期は、各学期末および全科目修了を認定するときとする。

2. 学習評価は、報告書及び試験を総合し5段階で評価する。

3. 学習評価は、5段階で表す。

(5 : 特に成績優秀な者) (4 : 成績良のもの) (3 : 成績普通の者)

(2 : 成績やや劣る者) (1 : 成績特に劣り、不合格の者)

<修了の認定>

各科目の修了は、その科目の出席の状況及び試験の成績を勘案して認定する。

※各科目修了の認定は、学習評価の基準で（2 : 成績やや劣る者）以上とする。

卒業・進級の認定基準

(概要)

必須科目全ての履修完了、および全ての試験に合格が課程修了の条件
必要な課程を修了した者を進級・卒業認定する

・卒業の認定に関する方針

学則第1条の本校の目的である

「高度の一般教育と実際の専門的な技術及び理論を習得させ、新時代にふさわしい健全有為な社会人を育成」に基づき、社会で活躍できる以下の能力を身につけ、学科の卒業の基準を満たした者に卒業を認定する。

- ・自動車整備士として必要な自動車整備技術（自動車の基本構造／点検／整備／故障診断）に関する知識・技術を習得し、それらを法規および安全に配慮し実施できる。
- ・「自動車やものづくり」に関するホンダの最新技術を理解し、整備実務や開発実務で活用できる。
- ・社会人としての基礎力を身につけ、相手との円滑なコミュニケーションをとる事ができる。

学則細則 23 条に基づき以下のように実施
卒業認定会議の結果、卒業に必要な全科目が一定の基準に達し、出席率良好、性行良行と認められるものには、校長が卒業を認定する。

学修支援等

(概要)

入学前教育。クラス担任制、新入生オリエンテーション、定期的な個別面談随時、成績不振者などへの個別対応、生活指導など

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
|---|------------|-------------------|------------|
| 37人 (100%) | 0人 (0%) | 37人 (100%) | 0人 (0%) |
| (主な就職、業界等) 自動車販売会社、自動車整備工場、自動車メーカー、自動車関連企業 | | | |
| (就職指導内容) 個別面談による進路確認と就職先の斡旋、進路別説明会、社会人研修、企業説明会、企業セミナーの実施。就職試験に向けた個別指導の実施 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) | | | |
| 国家一級自動車整備士 | 受験者数 37名 | 合格者数 35名 | |
| 国家二級自動車整備士 | 受験者数 59名 | 合格者数 58名 | |
| (備考) (任意記載事項) | | | |

中途退学の現状

| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
|-------------|----------------|------|
| 383人 の内数 | 8人 の内数 | 2.1% |

| |
|--|
| (中途退学の主な理由) 進路変更・病気・意欲喪失・成績不振等 |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談、放課後の学習支援など学生個々に焦点をあてた個別指導 保護者との連携（連絡、および三者面談の実施）、留学生についての日本語フォー 学生相談室（カウンセラー） 自動車業界への興味喚起 |

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
|-------------|----|---------------------------|---------------------------|------------|--------------|------------|-----------|
| 工業 | | 工業専門課程 | 一級自動車研究開発学科 開発・設計工学コース | | ○ | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 4年 | 昼間 | 4011 単位時間 | 2595 単位時間 | 0 単位時間 | 1416 単位時間 | 0 単位時間 | 0 単位時間 |
| | | | 4011単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 520人 の内数 | | 462人 の内数 | 14人 の内数 | 30人 の内数 | 2人 の内数 | 32人 の内数 | |

| |
|--|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
| <p>(概要)</p> <p>国家二級整備士資格の取得を目標に「自動車整備士養成施設の指定基準」に定められた学科および実習科目を必要時間以上実施。また、自動車開発技術の修得を目標に学科および実習科目を実施。</p> <p>加えて、社会人として必要な一般教養科目も実施。4年間の授業科目・時間数は学則で定め、全科目の修得を必須としている。</p> <p>授業方法および授業内容、授業時間数は、以下の</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画書の作成課程 <ul style="list-style-type: none"> 3月上旬 次年度授業担当教員に授業計画書の作成方法について説明 3月上旬～中旬 授業担当教員が科目ごとに授業計画書を作成 3月中旬 学科ごとの課長が記載内容をチェック ・ 授業計画書の作成・公表時期 <ul style="list-style-type: none"> 3月下旬 完成 4月上旬 学校ホームページに授業計画書を掲載 <p>手順で授業計画として作成・公開している。</p> |
| 成績評価の基準・方法 |
| <p>(概要)</p> <p>学則細則に基づき以下のように実施</p> <p><試験の方法></p> <p>学科については筆記試験、実習については実技試験を原則とする。</p> <p>但し、実習については、報告書をもって試験に代える場合、または、報告書（レポート）に加えて実技試験の場合もある。</p> <p><試験の受験資格></p> <p>期間中の各科目の出席が学校で定める出席時間を満たしていること。</p> |

※原則として各科目の出席90%以上の出席。
 但し、出席時間が基準に満たない者に対しては、学生の願い出により補講授業を受けて不足分の出席時間数を補うことができる。

<試験の合格基準>
 各科目の合格点は、100点満点による60点以上とする。
 試験点数の評価は、
 (5) : 90~100点
 (4) : 75~89点
 (3) : 60~74点
 60点未満の場合は再試験を行う。
 報告書の評価は、
 (5) : 非常に優れている
 (4) : 優れている
 (3) : 普通
 (2) : やや劣る
 (1) : 劣る (再提出の必要がある)

追試験または再試験等の得点は、試験結果の90%を得点とみなす。
 但し、追試験に至った理由が止むを得ないと認めた場合は、この限りではない。

<学習評価の基準>
 成績の評価は、学則細則17条(学習評価の基準)に基づき、
 1. 評価時期は、各学期末および全科目修了を認定するときとする。
 2. 学習評価は、報告書及び試験を総合し5段階で評価する。
 3. 学習評価は、5段階で表す。
 (5 : 特に成績優秀な者) (4 : 成績良のもの) (3 : 成績普通の者)
 (2 : 成績やや劣る者) (1 : 成績特に劣り、不合格の者)

<修了の認定>
 各科目の修了は、その科目の出席の状況及び試験の成績を勘案して認定する。
 ※各科目修了の認定は、学習評価の基準で(2 : 成績やや劣る者)以上とする。

卒業・進級の認定基準

(概要)

必須科目全ての履修完了、および全ての試験に合格が課程修了の条件
 必要な課程を修了した者を進級・卒業認定する

・卒業の認定に関する方針

学則第1条の本校の目的である

「高度の一般教育と実際の専門的な技術及び理論を習得させ、
 新時代にふさわしい健全有為な社会人を育成」に基づき、
 社会で活躍できる以下の能力を身につけ、学科の卒業の基準を満たした者に卒業を認定する。

- ・自動車整備士として必要な自動車整備技術(自動車の基本構造/点検/整備/故障診断)に関する知識・技術を習得し、それらを法規および安全に配慮し実施できる。
- ・「自動車やものづくり」に関するホンダの最新技術を理解し、整備実務や開発実務で活用できる。
- ・社会人としての基礎力を身につけ、相手との円滑なコミュニ

| |
|---|
| <p>ケーションをとる事ができる。</p> <p>学則細則23条に基づき以下のように実施 卒業認定会議の結果、卒業に必要な全科目が一定の基準に達し、 出席率良好、性行良行と認められるものには、校長が卒業を認定する。</p> |
| <p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>入学前教育。クラス担任制、新入生オリエンテーション、定期的な個別面談随時、成績不振者などへの個別対応、生活指導など</p> |

| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---|------------|-------------------|------------|
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 15人 (100%) | 0人 (0%) | 15人 (100%) | 0人 (0%) |
| (主な就職、業界等) 自動車メーカー、自動車関連企業 | | | |
| (就職指導内容) 個別面談による進路確認と就職先の斡旋、進路別説明会、社会人研修、企業説明会、企業セミナーの実施。就職試験に向けた個別指導の実施 | | | |
| (主な学修成果(資格・検定等)) 国家二級自動車整備士 受験者数 54名 合格者数 54名 | | | |
| (備考) (任意記載事項) | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|--|----------------|------|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 383人 の内数 | 8人 の内数 | 2.1% |
| (中途退学の主な理由) 進路変更・病気・意欲喪失・成績不振等 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談、放課後の学習支援など学生個々に焦点をあてた個別指導 保護者との連携(連絡、および三者面談の実施)、留学生についての日本語フォー 学生相談室(カウンセラー) 自動車業界への興味喚起 | | |

| | | | | | | | |
|-------------|----|---------------------------|-------------------------------|------------|--------------|------------|-----------|
| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
| 工業 | | 工業専門課程 | 一級自動車研究開発学科 海外インターンシップ コース | | ○ | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 4年 | 昼間 | 3941 単位時間 | 1305 単位時間 | 30 単位時間 | 2606 単位時間 | 0 単位時間 | 0 単位時間 |
| | | | 3941 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 520人 の内数 | | 462人 の内数 | 14人 の内数 | 30人 の内数 | 2人 の内数 | 32人 の内数 | |

| |
|--|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
| <p>(概要)</p> <p>国家二級整備士資格の取得を目標に「自動車整備士養成施設の指定基準」に定められた学科および実習科目を必要時間以上実施。 加えて、社会人として必要な一般教養科目も実施。4年間の授業科目・時間数は学則で定め、全科目の修得を必須としている。 授業方法および授業内容、授業時間数は、以下の</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画書の作成課程 <ul style="list-style-type: none"> 3月上旬 次年度授業担当教員に授業計画書の作成方法について説明 3月上旬～中旬 授業担当教員が科目ごとに授業計画書を作成 3月中旬 学科ごとの課長が記載内容をチェック ・ 授業計画書の作成・公表時期 <ul style="list-style-type: none"> 3月下旬 完成 4月上旬 学校ホームページに授業計画書を掲載 <p>手順で授業計画として作成・公開している。</p> |
| 成績評価の基準・方法 |
| <p>(概要)</p> <p>学則細則に基づき以下のように実施</p> <p><試験の方法></p> <p>学科については筆記試験、実習については実技試験を原則とする。 但し、実習については、報告書をもって試験に代える場合、 または、報告書（レポート）に加えて実技試験の場合もある。</p> <p><試験の受験資格></p> <p>期間中の各科目の出席が学校で定める出席時間を満たしていること。 ※原則として各科目の出席90%以上の出席。 但し、出席時間が基準に満たない者に対しては、学生の願い出により補講授業を受けて不足分の出席時間数を補うことができる。</p> <p><試験の合格基準></p> <p>各科目の合格点は、100点満点による60点以上とする。 試験点数の評価は、</p> <p>(5) : 90～100点 (4) : 75～89点</p> |

(3) : 60～74点

60点未満の場合は再試験を行う。

報告書の評価は、

(5) : 非常に優れている

(4) : 優れている

(3) : 普通

(2) : やや劣る

(1) : 劣る (再提出の必要がある)

追試験または再試験等の得点は、試験結果の90%を得点とみなす。

但し、追試験に至った理由が止むを得ないと認めた場合は、この限りではない。

<学習評価の基準>

成績の評価は、学則細則17条(学習評価の基準)に基づき、

1. 評価時期は、各学期末および全科目修了を認定するときとする。
2. 学習評価は、報告書及び試験を総合し5段階で評価する。
3. 学習評価は、5段階で表す。

(5 : 特に成績優秀な者) (4 : 成績良のもの) (3 : 成績普通の者)

(2 : 成績やや劣る者) (1 : 成績特に劣り、不合格の者)

<修了の認定>

各科目の修了は、その科目の出席の状況及び試験の成績を勘案して認定する。

※各科目修了の認定は、学習評価の基準で(2 : 成績やや劣る者)以上とする。

卒業・進級の認定基準

(概要)

必須科目全ての履修完了、および全ての試験に合格が課程修了の条件
必要な課程を修了した者を進級・卒業認定する

・卒業の認定に関する方針

学則第1条の本校の目的である

「高度の一般教育と実際の専門的な技術及び理論を習得させ、
新時代にふさわしい健全有為な社会人を育成」に基づき、
社会で活躍できる以下の能力を身につけ、学科の卒業の基準を満たした者に卒業を認定する。

- ・自動車整備士として必要な自動車整備技術(自動車の基本構造/点検/整備/故障診断)に関する知識・技術を習得し、それらを法規および安全に配慮し実施できる。
- ・「自動車やものづくり」に関するホンダの最新技術を理解し、整備実務や開発実務で活用できる。
- ・社会人としての基礎力を身につけ、相手との円滑なコミュニケーションをとる事ができる。

学則細則23条に基づき以下のように実施

卒業認定会議の結果、卒業に必要な全科目が一定の基準に達し、出席率良好、性行良行と認められるものには、校長が卒業を認定する。

| |
|--|
| 学修支援等 (概要) 入学前教育。クラス担任制、新入生オリエンテーション、定期的な個別面談随時、成績不振者などへの個別対応、生活指導など |
|--|

| | | | |
|------------------------------------|----------|-------------------|----------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| (主な就職、業界等) | | | |
| (就職指導内容) | | | |
| (主な学修成果(資格・検定等)) | | | |
| (備考) (任意記載事項) 2019年度の卒業生はおりません。 | | | |

| | | |
|--|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 383人 の内数 | 8人 の内数 | 2.1% |
| (中途退学の主な理由) 進路変更・病気・意欲喪失・成績不振等 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談、放課後の学習支援など学生個々に焦点をあてた個別指導 保護者との連携(連絡、および三者面談の実施)、留学生についての日本語フォー 学生相談室(カウンセラー) 自動車業界への興味喚起 | | |

| | | | | | | | |
|----------|--------|---------------------------|-------------|-----------|--------------|-----------|-----------|
| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
| 工業 | 工業専門課程 | 自動車整備科 | ○ | | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼間 | 2090 単位時間 | 820 単位時間 | 0 単位時間 | 1270 単位時間 | 0 単位時間 | 0 単位時間 |
| | | 2090単位時間 | | | | | |
| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 240人 | 169人 | 43人 | 11人 | 0人 | 11人 | | |

| |
|--|
| <p>カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>国家二級整備士資格の取得を目標に「自動車整備士養成施設の指定基準」に定められた学科および実習科目を必要時間以上実施。 加えて、社会人として必要な一般教養科目も実施。2年間の授業科目・時間数は学則で定め、全科目の修得を必須としている。 授業方法および授業内容、授業時間数は、以下の</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画書の作成課程 <ul style="list-style-type: none"> 3月上旬 次年度授業担当教員に授業計画書の作成方法について説明 3月上旬～中旬 授業担当教員が科目ごとに授業計画書を作成 3月中旬 学科ごとの課長が記載内容をチェック ・ 授業計画書の作成・公表時期 <ul style="list-style-type: none"> 3月下旬 完成 4月上旬 学校ホームページに授業計画書を掲載 <p>手順で授業計画として作成・公開している。</p> |
| <p>成績評価の基準・方法</p> |
| <p>（概要）</p> <p>学則細則に基づき以下のように実施</p> <p><試験の方法></p> <p>学科については筆記試験、実習については実技試験を原則とする。 但し、実習については、報告書をもって試験に代える場合、 または、報告書（レポート）に加えて実技試験の場合もある。</p> <p><試験の受験資格></p> <p>期間中の各科目の出席が学校で定める出席時間を満たしていること。 ※原則として各科目の出席90%以上の出席。 但し、出席時間が基準に満たない者に対しては、学生の願い出により補講授業を受けて不足分の出席時間数を補うことができる。</p> <p><試験の合格基準></p> <p>各科目の合格点は、100点満点による60点以上とする。 試験点数の評価は、</p> <ul style="list-style-type: none"> (5) : 90～100点 (4) : 75～89点 (3) : 60～74点 <p>60点未満の場合は再試験を行う。</p> <p>報告書の評価は、</p> <ul style="list-style-type: none"> (5) : 非常に優れている (4) : 優れている (3) : 普通 (2) : やや劣る (1) : 劣る（再提出の必要がある） <p>追試験または再試験等の得点は、試験結果の90%を得点とみなす。 但し、追試験に至った理由が止むを得ないと認めた場合は、この限りではない。</p> <p><学習評価の基準></p> <p>成績の評価は、学則細則17条（学習評価の基準）に基づき、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 評価時期は、各学期末および全科目修了を認定するときとする。 2. 学習評価は、報告書及び試験を総合し5段階で評価する。 |

3. 学習評価は、5段階で表す。
 (5:特に成績優秀な者) (4:成績良のもの) (3:成績普通の者)
 (2:成績やや劣る者) (1:成績特に劣り、不合格の者)

<修了の認定>
 各科目の修了は、その科目の出席の状況及び試験の成績を勘案して認定する。
 ※各科目修了の認定は、学習評価の基準で(2:成績やや劣る者)以上とする。

卒業・進級の認定基準

(概要)
 必須科目全ての履修完了、および全ての試験に合格が課程修了の条件
 必要な課程を修了した者を進級・卒業認定する

・卒業の認定に関する方針
 学則第1条の本校の目的である
 「高度の一般教育と実際の専門的な技術及び理論を習得させ、
 新時代にふさわしい健全有為な社会人を育成」に基づき、
 社会で活躍できる以下の能力を身につけ、学科の卒業の基準を満たした者に卒業を認定する。

- ・自動車整備士として必要な自動車整備技術(自動車の基本構造/点検/整備/故障診断)に関する知識・技術を習得し、それらを法規および安全に配慮し実施できる。
- ・「自動車やものづくり」に関するホンダの最新技術を理解し、整備実務や開発実務で活用できる。
- ・社会人としての基礎力を身につけ、相手との円滑なコミュニケーションをとる事ができる。

学則細則23条に基づき以下のように実施
 卒業認定会議の結果、卒業に必要な全科目が一定の基準に達し、出席率良好、性行良行と認められるものには、校長が卒業を認定する。

学修支援等

(概要)
 入学前教育。クラス担任制、新入生オリエンテーション、定期的な個別面談
 随時、成績不振者などへの個別対応、生活指導など

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
|---------------|--------------|-------------------|--------------|
| 90人 (100%) | 1人 (1.1%) | 85人 (94.4%) | 4人 (4.4%) |

(主な就職、業界等)
 自動車販売会社、自動車整備工場、自動車メーカー、自動車関連企業

| | | | |
|--|--|--|--|
| (就職指導内容) 個別面談による進路確認と就職先の斡旋 進路別説明会、社会人研修、企業説明会、企業セミナーの実施 就職試験に向けた個別指導の実施 | | | |
| (主な学修成果(資格・検定等)) 国家二級ガソリン自動車整備士 受験者数 90名 合格者数 89名 国家二級ジーゼル自動車整備士 受験者数 90名 合格者数 87名 | | | |
| (備考) (任意記載事項) | | | |

| | | |
|---|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 168人 | 12人 | 7.1% |
| (中途退学の主な理由) 進路変更・意欲喪失・病気等 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談、放課後の学習支援など学生個々に焦点をあてた個別指導 保護者との連携(連絡、および三者面談の実施) 学生相談室(カウンセラー) 自動車業界への興味喚起 | | |

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
|----------|----|---------------------------|-------------|------------|--------------|-----------|-----------|
| 工業 | | 工業専門課程 | 国際自動車整備科 | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 3年 | 昼間 | 3150 単位時間 | 983 単位時間 | 57 単位時間 | 2110 単位時間 | 0 単位時間 | 0 単位時間 |
| | | | 3150単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 20人 | | 6人 | 0人 | 1人 | 0人 | 1人 | |

| | |
|---|--|
| カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画) | |
| (概要) 国家二級整備士資格の取得を目標に「自動車整備士養成施設の指定基準」に定められた学科および実習科目を必要時間以上実施。 加えて、社会人として必要な一般教養科目も実施。3年間の授業科目・時間数は学則で定め、全科目の修得を必須としている。 授業方法および授業内容、授業時間数は、以下の ・授業計画書の作成課程 3月上旬 次年度授業担当教員に授業計画書の作成方法について説明 3月上旬～中旬 授業担当教員が科目ごとに授業計画書を作成 3月中旬 学科ごとの課長が記載内容をチェック ・授業計画書の作成・公表時期 | |

3月下旬 完成
4月上旬 学校ホームページに授業計画書を掲載
手順で授業計画として作成・公開している。

成績評価の基準・方法

(概要)

学則細則に基づき以下のように実施

<試験の方法>

学科については筆記試験、実習については実技試験を原則とする。

但し、実習については、報告書をもって試験に代える場合、
または、報告書（レポート）に加えて実技試験の場合もある。

<試験の受験資格>

期間中の各科目の出席が学校で定める出席時間を満たしていること。

※原則として各科目の出席90%以上の出席。

但し、出席時間が基準に満たない者に対しては、学生の願い出により
補講授業を受けて不足分の出席時間数を補うことができる。

<試験の合格基準>

各科目の合格点は、100点満点による60点以上とする。

試験点数の評価は、

(5) : 90～100点

(4) : 75～89点

(3) : 60～74点

60点未満の場合は再試験を行う。

報告書の評価は、

(5) : 非常に優れている

(4) : 優れている

(3) : 普通

(2) : やや劣る

(1) : 劣る（再提出の必要がある）

追試験または再試験等の得点は、試験結果の90%を得点とみなす。

但し、追試験に至った理由が止むを得ないと認めた場合は、この限りでは
ない。

<学習評価の基準>

成績の評価は、学則細則17条（学習評価の基準）に基づき、

1. 評価時期は、各学期末および全科目修了を認定するときとする。

2. 学習評価は、報告書及び試験を総合し5段階で評価する。

3. 学習評価は、5段階で表す。

(5 : 特に成績優秀な者) (4 : 成績良のもの) (3 : 成績普通の者)

(2 : 成績やや劣る者) (1 : 成績特に劣り、不合格の者)

<修了の認定>

各科目の修了は、その科目の出席の状況及び試験の成績を勘案して
認定する。

※各科目修了の認定は、学習評価の基準で（2 : 成績やや劣る者）
以上とする。

| |
|---|
| <p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>必須科目全ての履修完了、および全ての試験に合格が課程修了の条件 必要な課程を修了した者を進級・卒業認定する</p> <p>卒業の認定に関する方針</p> <p>学則第1条の本校の目的である 「高度の一般教育と実際の専門的な技術及び理論を習得させ、 新時代にふさわしい健全有為な社会人を育成」に基づき、 社会で活躍できる以下の能力を身につけ、学科の卒業の基準を満た した者に卒業を認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車整備士として必要な自動車整備技術（自動車の基本構 造／点検／整備／故障診断）に関する知識・技術を習得し、 それらを法規および安全に配慮し実施できる。 ・「自動車やものづくり」に関するホンダの最新技術を理解し、 整備実務や開発実務で活用できる。 ・社会人としての基礎力を身につけ、相手との円滑なコミュニ ケーションをとる事ができる。 <p>学則細則23条に基づき以下のように実施 卒業認定会議の結果、卒業に必要な全科目が一定の基準に達し、 出席率良好、性行良行と認められるものには、校長が卒業を認定する。</p> |
| <p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>入学前教育。クラス担任制、新入生オリエンテーション、定期的な個別面談 随時、成績不振者などへの個別対応、生活指導など</p> |

| | | | |
|--|---------------|-------------------|------------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 8人 (100%) | 1人 (12.5%) | 7人 (87.5%) | 0人 (0%) |
| (主な就職、業界等) 自動車販売会社、自動車整備工場、自動車メーカー、自動車関連企業 | | | |
| (就職指導内容) 個別面談による進路確認と就職先の斡旋 進路別説明会、社会人研修、企業説明会、企業セミナーの実施 就職試験に向けた個別指導の実施 | | | |
| (主な学修成果(資格・検定等)) 国家二級ガソリン自動車整備士 受験者数 8名 合格者数 8名 国家二級ジーゼル自動車整備士 受験者数 8名 合格者数 8名 | | | |
| (備考) (任意記載事項) | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|---|----------------|-----|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 14人 | 0人 | 0% |
| (中途退学の主な理由) 進路変更・意欲喪失・病気等 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談、放課後の学習支援など学生個々に焦点をあてた個別指導 保護者との連携(連絡、および三者面談の実施) 学生相談室(カウンセラー) 自動車業界への興味喚起 | | |

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

| 学科名 | 入学金 | 授業料 (年間) | その他 | 備考(任意記載事項) |
|--------------|----------|-------------|----------|-------------------|
| 自動車整備科 | 280,000円 | 500,000円 | 490,000円 | 実験実習費、施設維持費、教育充実費 |
| 一級自動車研究開発学科 | 280,000円 | 500,000円 | 490,000円 | 実験実習費、施設維持費、教育充実費 |
| 修学支援(任意記載事項) | | | | |
| | | | | |

b) 学校評価

| | | |
|--|--------------------|-------------|
| 自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/ | | |
| 学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) | | |
| <p><主な評価項目> 「学校評価ガイドライン」に基づいて(教育理念・目的・育成人材像等、学校運営、教育活動、教育成果、学生支援、教育環境など)を設定している。</p> <p><評価委員会の構成>…委員の定数と構成 業界の有識者より1名/企業の役職者より1名/卒業生または保護者 1名 その他校長が必要と認める者 若干名(現在2名)</p> <p><評価結果の活用方法> 評価結果については、今後の教育内容や学校運営の改善に向けた取り組むべき課題については、事業計画策定時に検討し次期事業計画に反映している。当期においても6月に委員より提出された学校関係者評価報告書に基づき 7月以降に実施される校長を中心とした部課長会議にて改善方策を審議し具体的に改善を行っている。</p> | | |
| 学校関係者評価の委員 | | |
| 所属 | 任期 | 種別 |
| 株式会社 ホンダカーズ埼玉 | 2020.4.1~2022.3.31 | 企業代表 |
| 株式会社 オートテックジャパン | 2020.4.1~2022.3.31 | 企業代表 |
| 本田技研工業株式会社 | 2020.4.1~2022.3.31 | 企業代表 |
| 埼玉県ふじみ野市役所 | 2020.4.1~2022.3.31 | 地域住民(自治体)代表 |
| ホンダ テクニカル カレッジ 関東 後援会 | 2020.4.1~2022.3.31 | 保護者代表 |

| |
|--|
| 学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/ |
| 第三者による学校評価 (任意記載事項) |
| |

c) 当該学校に係る情報

| |
|--|
| (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e |
|--|

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。